

イカナゴ情報 No.2 (2023年6月)



道総研

令和5年6月26日

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 佐藤) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹⁾の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

漁獲物調査: 2023年6月前半は体長16~18cmが主体

6月前半の漁獲物標本を測定したところ、2023年は体長16~18cmの個体が主体となっていました(図1)。近年は主に2015年と2018年に小型個体(20cm以下)として漁獲されたものが、成長しながら各年で漁獲されており、今後は今年漁獲された小型個体が漁獲の中心になると予想されます。しかし2023年の組成では依然として20cm以上の大型個体も3割程度を占めており、今年漁獲された小型個体が2015年や2018年並みに多いかは不明瞭です。

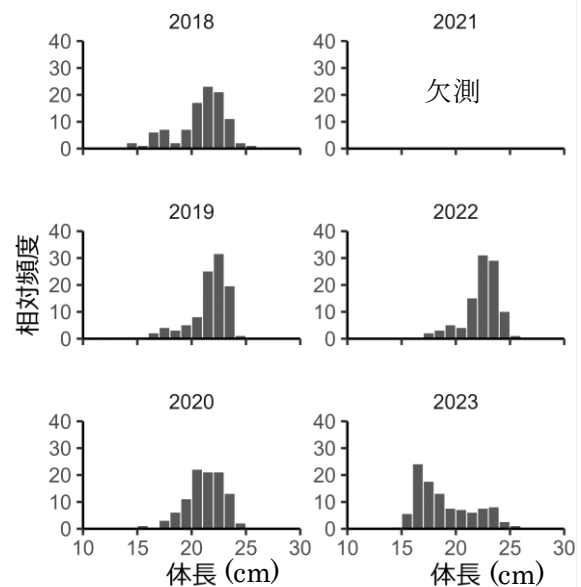


図1. 稚内で水揚げされたイカナゴ類の6月前半の体長組成.

海洋観測: 沿岸からオッター漁場・かけまわし漁場にかけて昨年より高めの水温

宗谷海峡東方海域において6月19~21日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を実施しました(図2)。観測ラインの水温断面図をみると、ラインAではO15からIS01(水深30~40m)の海域での水温は10~13℃前後で、水温が低めだった2022年に比べて4℃前後高く、2021年並みとなっています。また、オッタートロールの主漁場となるIS02からIS04(水深50~80m)の海域でも、底層水温はおおむね6℃前後と2022年より高く、2021年並になっています。ラインBでの沿岸域の水温は12℃前後、かけまわしの主漁場にあたるIS11からIS09(水深40~60m)の海域は6~12℃となっており、全体を通して2022年に比べて高く、2021年並の水温となっています。

¹⁾ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる (Orr et al., 2015)

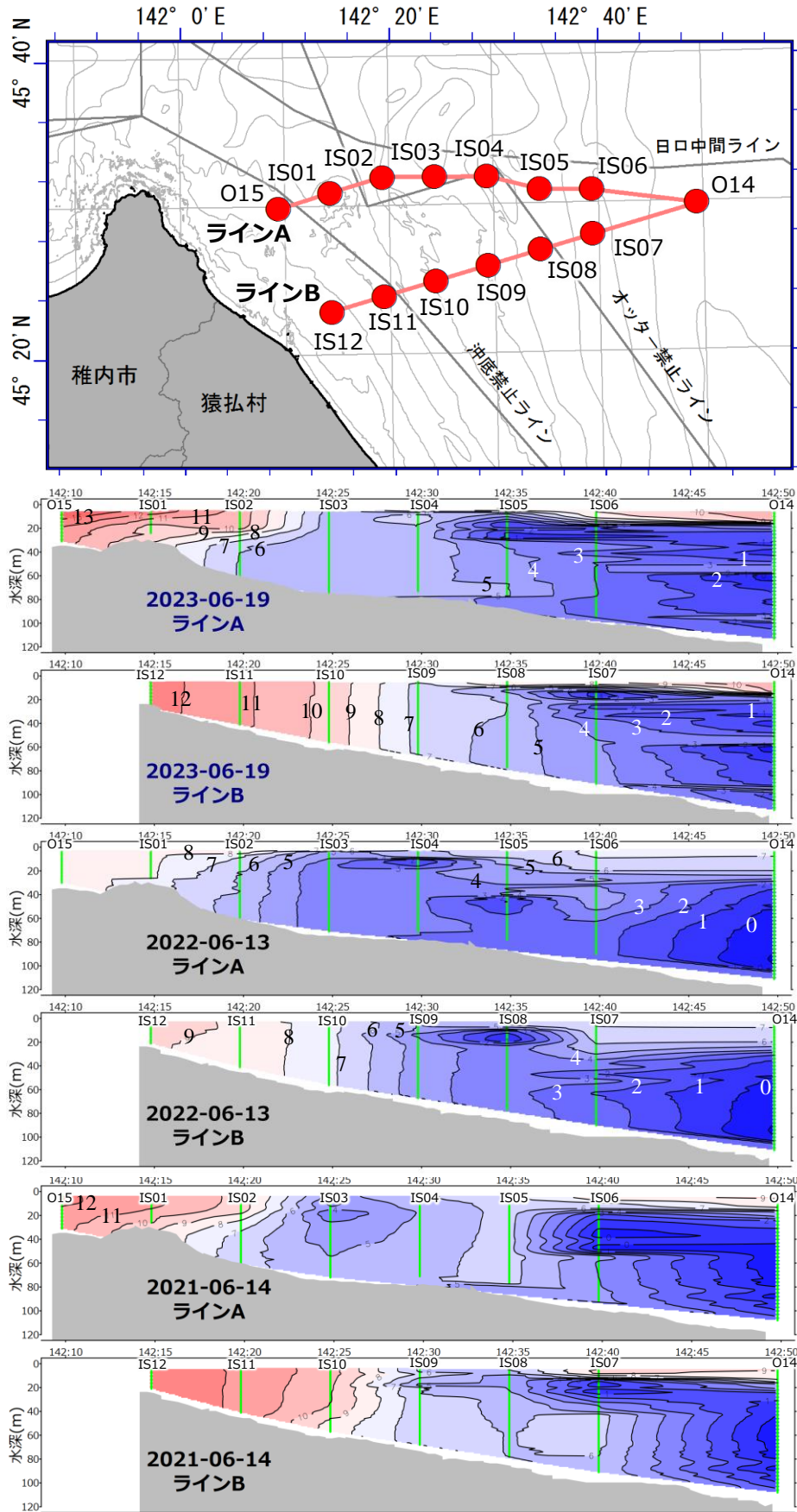


図2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と最近3年の水温断面図.

魚探観測：水深 50～75m 付近でイカナゴ類とみられる反応を複数確認(図 3)

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました。ライン A では水深 75m 付近でイカナゴ類とみられる魚群が確認されました。ライン B においては水深 50m 付近でイカナゴ類とみられる魚群を複数確認しました。

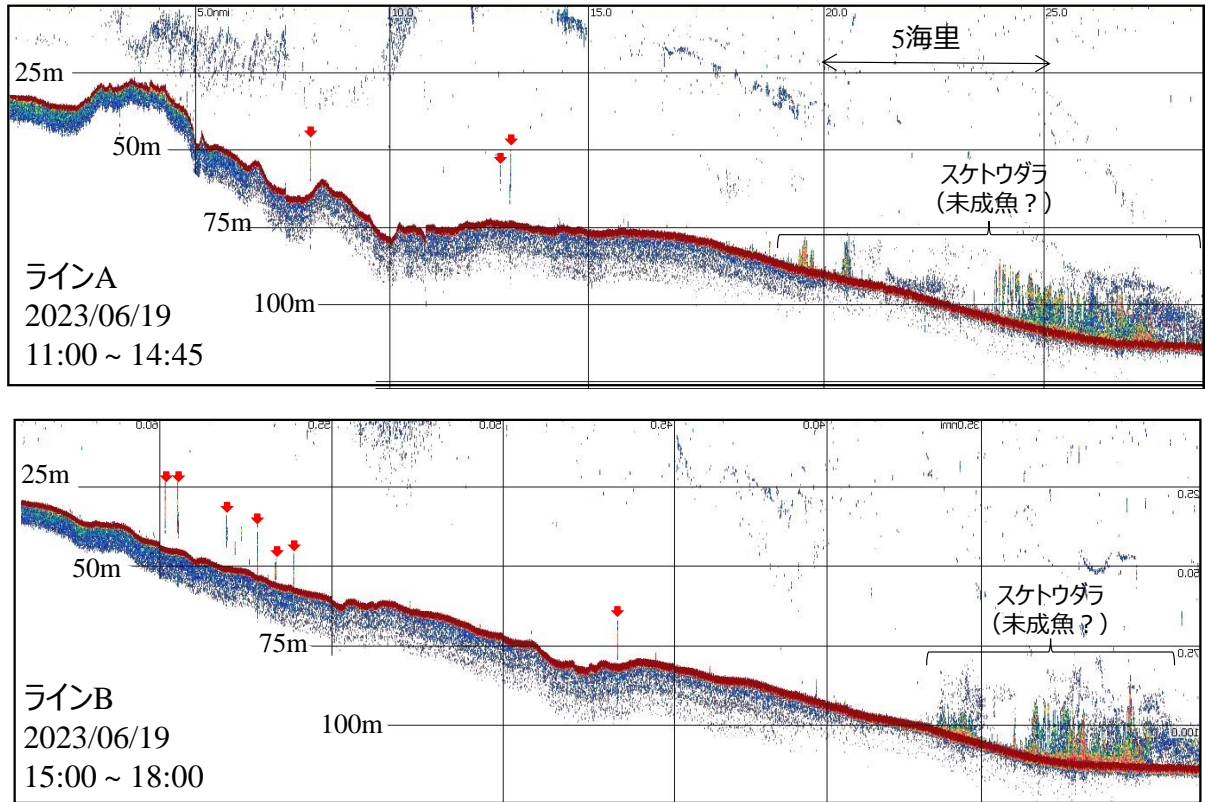


図 3. 観測ライン A~B における魚探反応(120kHz). 図中のイカナゴ類とみられる魚群反応を赤矢印で示した。